

大学開放型スポーツイベントへの取り組み～事例報告～

川 前 真 一*

弊社は13年目の会社でして、われわれのミッションとすれば、風の人となって種を植えましょうということで動いています。今日は自治体さんが多いので、土の人というのが住民さん、水の人というのが皆さん自治体の方というふうに捉えていただければと思います。主に、われわれはB to Cの種と、B to BもしくはGの種を、先ほどもありましたけれども、いわゆる社会課題解決に対して落としています。

本日は鹿屋体育大学の事例と鳴門教育大学の事例ということで、具体的な話を説明させていただきます。

私事ですが、今の本学の地域振興まちづくりということで、詳しくは先ほどもご説明がありましたこちらの冊子にありますが、平成29年からその一員として動いています。これは初期の組織図ですけども、学長が頭にいて、その下に部門がありまして、私のミッションとすればこの三つです。学内組織の企画、広報および提案業務と、お手元の冊子に加えまして、メディア対応とかSNS、あとの学外の連絡と外部資金ということで、当時鹿屋市さんからのご支援をいただいて、あとは民間からも少し引っ張ってきました。あとは育成ということで、人材と書いていますけれども、どちらかというと、みんなとわいわいしながら飲みながら語りながら、夢を語ったりだとか、現実何をしようみたいなことをやっていたところです。

これは初期の設計図で、私が入る前からありましたけれども、こういう流れでやっていこうということでした。左上にありますけれども、まずブランドを作りましょうというところがスタートでした。まず長い名前を学内の先生、学生さん、職員によって約20候補挙げていただいて、これを一つに選挙して決まったのがBlue Windsです。次にBlue Windsのロゴを作りましょうということで、これは大隅地域の高校の書道部、約100人ぐらいですけども、10のデザインロゴを作っていただいて、その100人の中で二つに絞っていただきました。この二つのロゴをオリンピッ

ク形式で、鹿屋市内の小中高で1クラスで1票で、本学の学生に関しては課外活動で1票として選挙した結果、こちらのBlue Windsというお手元のシールになっています。

われわれはこのロゴを使って、大学スポーツによる地域連携ということで、やってきていますけれども、今思えば、いろいろなことをやってきたなと思います。運動会をやったり、野球部に市民の方を呼んで見たり、バスケもそうです。一番反響が大きかったのは、これです。「タイダイの中まで行ってスイーツ」というグレーのネーミングですけども、これは学生さんが考えてきまして、やってみました。要は大学内の学生から私のところに、試合もだけれども普段の練習を見てほしいという要望がありました。何をしたかという、15の鹿屋市内のスイーツ屋さんに協力していただいて、当日15の課外活動の皆さんが練習をしています。その練習をしている中に学生が考えた謎を散らばめて謎解きをしました。スタートを学生食堂から始めて、当日、100チームとありましたけれども、1月にやったのでインフルエンザもあって97チームの一般の方が学食からスタートして、自分の好きな部活を見て、例えばサッカー部の問題が解けたらショートケーキがもらえとか、スイーツ屋さんも15の課外活動に散らばってて、謎を解けたらスイーツを食べましょうという、一番反響があったものです。

それ以外にはBlue Windsのロゴを使ってユニフォームを作ったり。先ほども少しありましたけれども、みんなのタイムトライアルを陸上競技場でお披露目したり、これは今年度バレーボールの大会をしたときに装飾をしたり、この間できた水泳部のスタートのところに名前を入れたり、それ以外にも広報でいろいろと活用をしていただいています。

本学のこの取り組みをするにあたって、一発目、「川前いろいろ考えろ」ということで、立案して企画して実施したのが、かのやエンジョイスportsです。タイトルが「バラが舞い！カンパチ跳ねて！ウシ突き進

* 株式会社スポーツリンクアンドシェア

む！」で、右上に鹿屋の漁連の方がいたり、左上に本当に牛を育てている方がいたり、こういう地域の方を巻き込みながらイベントポスターも作りました。一つ今だから言えるのは、「ウシ突き進む」で1週間もめました。最初は「ウシが踊る」だったのですが、市長がウシは踊らないと、僕は直談判に行って、「そういうことじゃないんだ。例えなんだ」と言ったら、「いや、ウシは踊らん」ということで、結果「突き進む」というところを落とすどころにしました。

これはよく合成だろうと言われますけれど、実際は現場でこの格好をさせていただいて撮りましたが、後ろを見たら僕とカメラマンしかなくて、市の職員も本学の職員も誰もいませんでした。もうこの4人だけで個室で撮りました。ポイントはこれです。左からいきますと、5年くろし組なかにししげるですけれども、現市長ですが、当時は5年目ということで5年生です。当時2年目だったので、2年カンパチ組まつしたまさおということで撮ったということです。

この運動会の動画を少し見ていただければと思います。

<動画再生>

川前：ありがとうございます。

この2種目は、大学からというか学長からも学生をまずは主演にしないで、と同時に地域との距離を深めなさいということで考案しました。非常にやって良かったということもありますし、これを今、継続事業としてやっています。当初、私が大学のこの立場に入ったときに、いろいろな方にヒアリングをしました。どこに行ってもこういった声が多かったように思います。そんな中で、大学スポーツで地域の連携を図ることが可能なのかという命題を受けたわけですが、様々なイベントを通して、本学の萩原先生と、われわれのSA室の室員ですが、一つ研究成果とすれば、大学スポーツをすることで大学への関心・興味が高まり、地域の愛着ないし密着ということで、ポイントは赤字にも書いていますが、大学が一方的に行う地域貢献ではなくて、地域との共同作業によるものにする、どれだけいろいろな方を巻き込めるかというのがポイントなのかと結論としては思っています。

私は立場上、広報ということもやっていまして、実際にいろいろなイベントをすることでメディア周りも

します。ラジオ、テレビ、テレビに関してはMBCさんという南日本放送さんとの連携もございまして、担当の方にお尋ねしたら、お金を払うとこれぐらいはいただくと、これは黄色の部分なので、白は分らなかった他局さんですけれども、それでも200万以上のメディア効果だったのかなと思います。もう一つが新聞です。今日いらっしやっている南日本新聞のホリさんのご協力もいただきまして、これも南日本新聞さんだけで黄色い部分になりますけれども400万以上の効果ということで、別にこれは払ったとかもらったとかではなくて、これだけの露出効果という意味での数値になります。

二つ目が鳴門教育大学ということで、四国の徳島県鳴門市にあります。学内を使ってリレーマラソンをしています。なぜ僕がここに関わっているかということですが、もともとわれわれは鹿児島リレーマラソンを2012年からやっています。当初からコンセプトと目的は変わっていませんが、先ほどの増井さんの話にもありましたけれども、スポーツツーリズムというのだなということを認識しました。当時これは県の観光だとかいろいろなところに応援をいただきに行ったときも、非常に理解をいただけなかった記憶を、今、思い出しながら感慨を深めていたところでした。いわゆるリレーマラソンというものを通して観光とスポーツと食というところ、今現在、われわれは、ウナギたまRUNとお肉たまRUN、甘さたまRUN、お魚たまRUNみたいなものをやっています。実は、ウナギたまRUNは明後日、お隣の大崎町というところで初めてやるイベントです。ウナギ1尾井というのが完走したご褒美に完走賞としていただけます。聞いたら1万円ぐらいするそうです。通常は3切れで3000円だから、その3杯分でご飯もついてるからみたいな感じですよ。

これをわれわれも実は本学でも、13年度、14年度の2回やっています。そのときに局長でいらっしやった黒川さんが、現在は京都の花園大学にいらっしやいますが、その方が鳴門教育大学に赴任されました。「鳴門教育大学でやってみたいんだけど、いつ来れる」という電話が飲んでいるときにありまして、すぐに僕は飛行機で行って、最初に学長と担当課長と会って、次に市長と担当課長もいらっしやって、視察してきてよと、大体これで1日、2日です。そして2、3週間後に、これをやるからと、このスピード感でやったのが

鳴門リレーマラソンということです。鳴門市と教育大学さんの連携の下、実行委員会を組んでやっています。

黒川さんが、これは鳴門教育大学の学園だよりに書いていますが、緑の部分です。これは第1回目です。61チームのランナーの中には本学職員2チームの他、愛知教育大学職員チーム、明石工業高等専門学校チーム、文科省行政実務研修生、九州大学職員などということで、錚々たる方もいらっしゃっていましたし、県内外からも参加されていました。

これは2回目の属性ですけれども、これはなんで2回目かという、そんなに変わっていなかったの、一番見栄えがいいのにしています。ポイントは、男性が多いのと若い方が多いというところかと思います。これは今まで5回やっています、この間11月に5回目が終わりました。参加人数は右肩上がりで増えていまして、4回目はなんで減っているかという、体育の日に開催したら、みんな他のいろいろなイベントに行ってしまう、元に日程の戻したら数字が戻ったというところなんです。

収入構造ですけれども、実はほぼほぼ参加費で賄っています、協賛金というのがありますが、実は鳴門市の負担金というのは20パーセントないぐらいです。大体13~15ぐらいです。そんなに鳴門市は払っていません。その結果、何が起きているかというと、いったん参加費を弊社で預かっている、ここ3回ぐらいは還付金というか戻しています。つまり、多分もっと計上しているのだけど、私たちが戻している、そういう収支構造になっています。

これも動画があるので見てください。

<動画再生>

川前：ポイントは二つです。陸上トラックを使いません。走れないところを走っているというのが一つです。もう一つは、最後に出ましたが協賛企業が30社以上あります。これを市役所の方と大学の方が回っていることがすごいないつも思っているところなんです。

大学スポーツの資源を活用した地域振興の可能性

大学開放型スポーツイベントへの取り組み ～事例報告～



(株)スポーツリンクアンドシェア
代表取締役 川前真一



プロフィール

川前真一 44歳

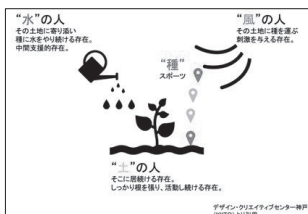
1975年 鹿児島県霧島市生誕（旧霧島町）
国分西小学校
国分南中学校
国分高校
国立鹿屋体育大学（学部・修士）



- ・枕投げさつま町実行委員
 - ・鹿児島県レマラン実行委員長
 - ・その他多数実行委員会所属
-
- ・日本サッカー協会 スポーツマネジャーズカレッジ特別講師（歴任）
 - ・日本フットサル施設連盟事務局長（歴任）
 - ・鹿児島県フットサル連盟理事就任(歴任)
 - ・鳥取県事業戦略プラン検討委員会委員（歴任）

会社概要

社 名	: 株式会社スポーツリンクアンドシェア (2007年12月設立)
ミッション	: 誰もが獨ける場所をつくる
経営理念	: スポーツを核として社会課題解決に取り組む
経営指針	①もとに誰を創り(考える)、誰を(行動する)、育てる(改善する) ②様々な社会分野(フィールド)へ挑戦(トライ&エラー&トライ) ③スポーツの付加価値を創出する



クラスマッチ (BtoC) & オフィスマッチ (BtoB)

種@スポーツ



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

鹿屋体育大学



鹿屋市



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

国立大学法人鹿屋体育大学
大学スポーツによる地域振興モデル作り（KANOYAモデル）



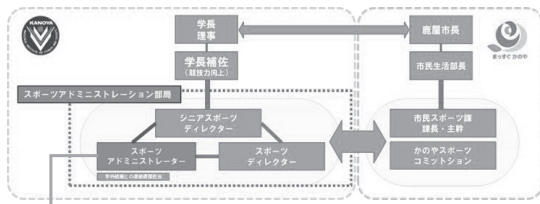
平成29年（2017年）10月

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

鹿屋体育大学



鹿屋市



3) スポーツアドミニストレーターの育成

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

平成30年度

スポーツ・健康ブランド創設
【創造】

平成31年度以降

大学が主体となり地域貢献
 「ブランドの浸透」
【浸透】

鹿屋市×大学×地域による
 継続的な事業展開
 「日本スポーツが盛んな町」
【文化・伝統】

鹿屋市×大学×地域による
継続的な事業展開
「日本一スポーツが盛んな町」
【文化・伝統】

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



①ブランド名→学生、先生、職員による選挙

約20候補→1つへ

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

Blue Winds(ブルーウィンズ)

鹿屋の澄んだ空と海の色、そして鹿屋体育大学のカラーでもあるブルーをイメージし、Windsには単語の中に勝利を意味するWinを含む



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

Blue Winds(ブルーウィンズ)



①ブランド名→学生、先生、職員による選挙

②ロゴ→大隅地域の高校書道部が制作

10の作品→2つへ

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

Blue Winds(ブルーウィンズ)



①ブランド名→学生、先生、職員による選挙

②ロゴ→大隅地域の高校書道部が制作

③鹿屋市内の小中高でクラス別選挙
2つ→1つへ

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

Blue Winds(ブルーウィンズ)



①名前→学生、先生、職員による選挙

②ロゴ→大隅地域の高校書道部が制作

③鹿屋市内の小中高でクラス別選挙

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

鹿屋体育大学

鹿屋市



大学スポーツによる
地域連携



地域住民

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

鹿屋体育大学

鹿屋市

大学スポーツによる
地域連携



カノヤエンジョイスポート (5月20日)



カレッジスポーツダイ 野球 (10月14日)



カレッジスポーツダイ バスケボール (10月21日)



タイダイの中学生でインテース (1月14日)

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

鹿屋体育大学

鹿屋市

大学スポーツによる
地域連携



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

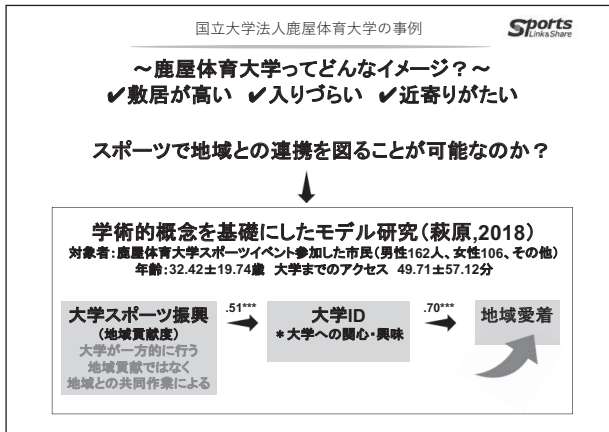
運動会動画 4分

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

Sports
LinkShare

～鹿屋体育大学ってどんなイメージ？～
✓敷居が高い ✓入りづらい ✓近寄りがたい

スポーツで地域との連携を図ることが可能なのか？



国立大学法人鹿屋体育大学の事例

SA室@メディア露出「ラジオ 11回」

放送日	時間	番組	内容
2018年4月30日	19:00～	MBCラジオ 「かこしま新聞放送」	川野さん出演 エンジョイスポートの告知
2018年7月6日	19:00～19:55(中)	FMかこしま 「Sportsプラス」	長瀬裕一 出演 鹿児島県のスポーツ、NCAA、アムステルダム大会のその後など。
2018年10月5日	18:00～18:50(中)	MBCラジオ 「ゆでたまごラジオ」	10月14日エンジョイスポート(野球)と 10月21日エンジョイスポート(バスケットボール)について
2018年10月11日	11:45(中) (番組は11:30～12:55)	FMかこしま 「アナタがRealワールド」	10月14日エンジョイスポート(野球)と 10月21日エンジョイスポート(バスケットボール)について
2018年10月15日			NCAAとはなにかについてなど
2018年10月17日	10:40～10:50(中) (番組は10:00～12:50)	MBCラジオ 「えつちゃんのおんぼろ放送部」	エンジョイスポート(バスケットボール)
2018年10月18日			エンジョイスポート(野球)
2018年11月12日	12:00～12:30	FMかこしま 「おんぼろラジオタイム」	日本BNCATKANOVを主として
2018年12月18日	10:40～10:50(中) (番組は10:00～12:50)	MBCラジオ 「えつちゃんのおんぼろ放送部」	1月14日開催予定イベント 「タイタス」の中でエンジョイスポートについて
2018年4月19日	9:05～9:20	FMかこしま	エンジョイスポートの告知

情報提供先@鹿屋体育大学 総務課 広報係

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

SA室@メディア露出「テレビ 14回」

放送日	時間	番組	内容
2018年4月30日	18:24～20:19(中)	ニュースエブリー-かこしま	1015サッカー
2018年5月21日	19:37～20:19(中)	MBC 金曜のニュース	エンジョイスポート事後掲載
2018年5月30日	19:00～7:20(中)	MBCでサタデー	エンジョイスポート事後掲載
2018年7月7日	10:44～10:51(中)	KIX朝7ニュース	エンジョイスポート事後掲載
2018年8月28日	18:30～21:19(中)	KTSブライムニュース(大隅フラッシュ)	エンジョイスポート告知
2018年10月5日	16:34～20:19(中)	かこしま4(JC)	エンジョイスポート告知
2018年10月13日		鹿児島1チャンネル	エンジョイスポート告知
2018年10月15日	18:39～41:19(中)	MBCニュースナウ	エンジョイスポート告知
2018年10月17日		MBCでサタデー	エンジョイスポート告知
2018年10月20日		鹿児島1チャンネル	エンジョイスポート告知
2018年11月14日	18:30～21:19(中)	MBCニュースナウ	エンジョイスポート告知
2018年11月30日	19:22～42:20(中)	でサタデー	エンジョイスポート告知
2018年12月11日	11:41～42:19(中)	KITストレイトニュース	エンジョイスポート告知
2018年12月18日	14:55～56:19(中)	MBC大隅これこれ	エンジョイスポート告知

情報提供先@鹿屋体育大学 総務課 広報係

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

SA室@メディア露出「テレビ 14回」 200万円以上のメディア露出効果

放送日	時間	番組	内容
2018年4月30日	18:24～20:19(中)	ニュースエブリー-かこしま	1015サッカー
2018年5月21日	19:37～20:19(中)	193.000 MBC 金曜のニュース	エンジョイスポート事後掲載
2018年5月30日	19:00～7:20(中)	640.000 MBCでサタデー	エンジョイスポート事後掲載
2018年7月7日	10:44～10:51(中)	KIX朝7ニュース	エンジョイスポート事後掲載
2018年8月28日	18:30～21:19(中)	KTSブライムニュース(大隅フラッシュ)	エンジョイスポート告知
2018年10月5日	16:34～20:19(中)	200.000 かこしま4(JC)	エンジョイスポート告知
2018年10月13日		鹿児島1チャンネル	エンジョイスポート告知
2018年10月15日	18:39～41:19(中)	193.000 MBCニュースナウ	エンジョイスポート告知
2018年10月17日		MBCでサタデー	エンジョイスポート告知
2018年10月20日		鹿児島1チャンネル	エンジョイスポート告知
2018年11月14日	18:30～21:19(中)	96.000 MBCニュースナウ	エンジョイスポート告知
2018年11月30日	19:22～42:20(中)	640.000 でサタデー	エンジョイスポート告知
2018年12月11日	11:41～42:19(中)	KITストレイトニュース	エンジョイスポート告知
2018年12月18日	14:55～56:19(中)	96.000 MBC大隅これこれ	エンジョイスポート告知

情報提供先@株式会社南日本放送

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

SA室@メディア露出「新聞 12回」

放送日	時間	媒体	内容
2018年4月号	—	広報かのや(P28)	エンジョイスポート告知
2018年5月21日	—	西日本新聞	エンジョイスポート事後掲載
2018年5月24日	—	南日本新聞(18面)	エンジョイスポート事後掲載
2018年6月19日	—	南日本新聞(22面)	エンジョイスポート事後掲載
2018年10月8日	—	南日本新聞(2面)	エンジョイスポート告知
2018年10月28日	—	南日本新聞(17面:記者の目)	エンジョイスポート告知
2018年4月号	—	広報かのや(P18)	エンジョイスポート告知
2018年5月号	—	ハッピーチェイス(P28)	エンジョイスポート告知
2018年5月号	—	BIG WAVE	エンジョイスポート告知
2018年5月号	—	南日本新聞(15面:南風録)	エンジョイスポート告知
2018年5月12日	—	南日本新聞(14面)	エンジョイスポート告知

情報提供先@鹿屋体育大学 総務課 広報係

国立大学法人鹿屋体育大学の事例

SA室@メディア露出「新聞12回」 400万円以上のメディア露出効果

放送日	時間	媒体	内容
2018年4月号	—	広報かのや(P28)	エンジョイスポート告知
2018年5月21日	—	西日本新聞	エンジョイスポート事後掲載
2018年5月24日	—	南日本新聞(18面)	エンジョイスポート事後掲載
2018年5月29日	—	南日本新聞(22面)	エンジョイスポート事後掲載
2018年10月8日	—	南日本新聞(2面)	エンジョイスポート告知
2018年10月28日	—	南日本新聞(17面:記者の目)	エンジョイスポート告知
2018年4月号	—	広報かのや(P18)	エンジョイスポート告知
2018年5月号	—	ハッピーチェイス(P28)	エンジョイスポート告知
2018年5月号	—	BIG WAVE	エンジョイスポート告知
2018年5月号	—	南日本新聞(15面:南風録)	エンジョイスポート告知
2018年5月12日	—	南日本新聞(14面)	エンジョイスポート告知

参考資料@南日本新聞 朝刊広告料金表

国立大学法人鳴門教育大学の事例

設立:1981年
 所在地:徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748
 学生数:約900人(学部・大学院)
 教員数:約130人
 特徴:教師を育てる大学
 2019年:鳴門モデル(大学院教育スタート)

国立大学法人鳴門教育大学の事例

鳴門マラソン

2019年11月10日(日)
 <スケジュール>
 開 場: 8時30分
 受付開始: 8時40分
 開 会 式: 9時30分
 スタート: 10時
 競技終了: 15時

鹿児島リレーマラソン 2012年～

【コンセプト】

鹿児島県内各地の観光地を文字通り「リレー」してスポーツ＝リレーマラソンによる地域活性化を図る。

●地域活性化＝観光＋スポーツ＋食（特産物・地元食）

【目的】

①「鹿児島リレーマラソン」の企画・開催により、新たな旅行・消費行動を喚起し、宿泊数の増加、旅行消費額の拡大、さらに本大会を活用した新しいまちづくりや観光圏の創造を図っていくことを目的とする。

②「42.195キロをチーム（5～20人）一丸となって1本のタスキをつなぎ、チームの絆を深め、参加者・応援団の皆で感動をわかちあう」を合い言葉に、初心者・初級者ランナーのための登竜門として位置づけ、さらに継続した大会開催によりランナーの活動を提供・促進することを目的とする。

①忠元公園（伊佐市）

②桜島多目的広場

③ウォーターフロント

④マリンポート

⑤かんまちあ

⑥吹上浜公園

⑦かのやばら園

⑧霧島ヶ丘公園

⑨鹿児島体育大学

⑩みなと公園



鹿児島リレーマラソン

【地域活性化＝観光＋スポーツ＋食（特産物・地元食）】



鹿児島リレーマラソン

2013年、2014年@鹿児島体育大学リレーマラソン



鹿児島リレーマラソン

2013年、2014年@鹿児島体育大学リレーマラソン

黒川文朗@花園大学事務局次長



国立大学法人鳴門教育大学の事例



鳴門リレーマラソン・スキーム 実行委員会

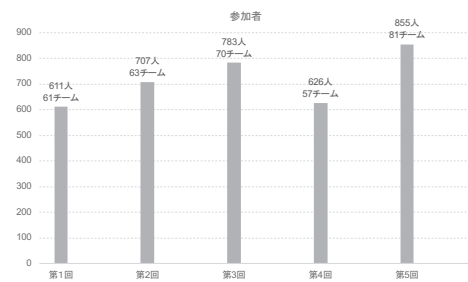


役職名	団体名・職名
会長	鳴門教育大学 総務・財務担当理事
副会長	鳴門市副市長
委員	鳴門教育大学 副学長・体育・健康・福祉・スポーツ・国際化推進担当理事
	鳴門市産業振興推進委員会副委員長
	鳴門教育大学 教務部長兼学術振興推進委員長
	鳴門教育大学 院生会長（大学院生）
	鳴門教育大学 学生会長（学部生）
事務局	鳴門市観光企画課長
	鳴門市観光企画課 副課長
	鳴門市観光企画課 係長

役職名	団体名・職名
顧問	鳴門市
	鳴門教育大学長

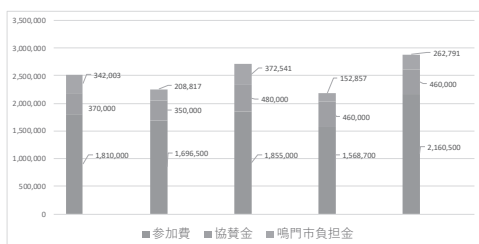
国立大学法人鳴門教育大学の事例

鳴門リレーマラソン参加人数推移



国立大学法人鳴門教育大学の事例

鳴門リレーマラソン収入構造



国立大学法人鳴門教育大学の事例

鳴門リレーマラソン動画2分



ご清聴ありがとうございました